

関電原発2基、定検で停止へ 再稼働…見えぬ道筋

2011.7.21 20:36

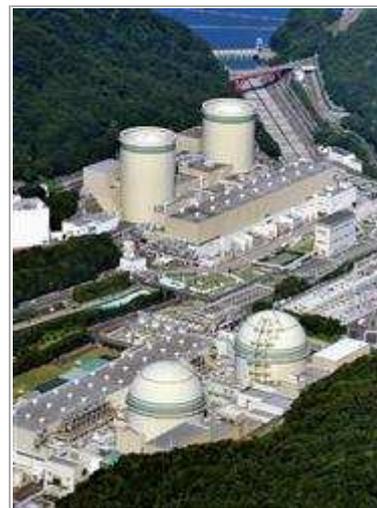
関西電力は21日、高浜原子力発電所4号機（福井県高浜町、出力87万キロワット）で、定期検査に入るための原子炉の停止作業を開始した。同日夕から出力を徐々に下げ、解列（発電の停止）作業を経て、午後11時前後に原子炉を止める予定。関電大飯原発4号機（同県おおい町、118万キロワット）も22日に定検入りして運転を停止する予定で、再開がいつとは知れないまま計約200万キロワットの電力を失うことになる。

関電は定検期間を約4カ月としているが、再稼働については、経済産業省原子力安全・保安院によるストレステスト（耐性検査）の1次評価の対象になる。しかし、全ての原発に対してより詳細な2次評価も実施することになっている。

2次評価についての電力会社からの報告は年末までに行われる予定のため、1次評価は今秋ごろまでに終わると見込まれるが、1次評価だけで再稼働に向けた地元の了解が得られるかどうかは定かではない。

ストレステスト以上に再稼働を遠のかせそうなのが、東京電力福島第1原発の事故を受け、新たな安全基準の設定を求めている福井県が「ストレステストでは不十分」との立場を崩していないことだ。

高浜町の野瀬豊町長は21日の記者会見で「福井の原発は、関西の“血液”を送っており、社会システム全体を動かす拠点」と指摘。「関西の電力需給が逼迫（ひっぱく）することを危惧している」とも述べて、早期再稼働の必要性に言及したが、「ストレステストの日程を明確にするなど足元を見た対応が必要」とも述べ、再稼働への慎重姿勢を見せた。



[クリックして拡大する](#)

関西電力の高浜原発。手前左が4号機＝16日、福井県高浜町で共同通信社ヘリから